

Rudolf Steiner:

“Esoterische Betrachtungen karmischer Zusammenhänge”, Band V, GA 239

Esoterische Betrachtungen karmisch-kosmischer Zusammenhänge

最も重要な『カルマ論全集』

(日本では未訳の3巻～6巻)第5巻の邦訳。

人間が再びカルマに、

本当のカルマに帰っていく、

本当のカルマを生き尽くすための・・・

宇宙からの一条の光——カルマ認識の書

新刊書 2021年12月22日発行

A5版フランス装 本文128頁

ISBN978-4-903865-49-2

定価2530円(本体価格2300円+税)



Erstes Goetheanum

ルドルフ・シュタイナー(1861-1925)の最晩年、1924年の活動は、81回にも及ぶ講演『カルマ的関連の秘教的考察』に止まらない。1908年から設計を開始し20年に未完ながら開館した木造建築の第1ゲーテアナムは、放火によって消失(1922年12月31日)。シュタイナーは直ちに再建にむけ粘土模型を制作に取りかかった。また、音楽オイリュトミー講座をはじめとして、治療教育講座、言語オイリュトミー講座、農業講座など、さらにキリスト者共同体のためにも助言を惜しまなかった。本書はドイツ語全集版(第5巻 GA239)に収められた、プラハ講演(1924年3月29日～4月5日)の全訳である。

訳者 丹羽敏雄 Toshio Niwa

京都大学理学部において数学を専攻。大学時代、ゲーテに出会い大きな影響を受ける。30代半ばシュタイナーの人智学に出会う。

数学の研究・教育の傍ら、オイリュトミーに熱中。人智学をドイツ、イギリスなどで学ぶ。現在、ゲーテ・シュタイナー的学、バイオグラフィック・ワーク、占星学、カバラを研究。バイオグラフィック・ワーク・ジュピター会員。理学博士、津田塾大学名誉教授。

関連著書『やさしい占星術』、『星々と木々』、『シュタイナーの老年学』、『シュタイナーの人年学』、『百合と薔薇』、『沈黙のコスモロジー』他。訳書『境界に立つI・II』、『植物への新しいまなざし』、『エーテルと生命力』、『魂の救済』、『アントロポゾフィーの礎』、『人間と大地における惑星の作用と生命プロセス』、『カルマ認識と霊的・宗教的人生への衝動』

ルドルフ・シュタイナー 講演集

[カルマ的関連の秘教的考察]



ルドルフ・シュタイナー

カルマ的・宇宙的関連から見た人生

プラハにおける4回の講演(1924.3.29-4.5)

丹羽敏雄 訳・解説

人は人間に出会い、そして双方の人間の今後の運命を一緒に演じ、これまでの人生全体を、深い節目となるやり方で変えます。そのようなカルマ的な出会いには、過去に関わる月のタイプと、未来に関わる太陽のタイプがあります。太陽と月が星界において、互いに関係しあっているように、私たちの月的なもの、過去は、私たちの太陽的なもの、未来に繋がっています。運命は、まさに人間の中で現在を通して過去から未来へと継続していきます。

私たちが考え、感じ、感受するものは、ここ地球上では、あたかもそれが私たちの皮膚の中に閉じ込められているかのよう、マーヤの形で現れます。死後生においては、私たちが内部で考えや感じることや心情で発達させるもの、それは世界全体に属し、世界全体の中に働きかけます。

アントロポゾフィーは、基本的にそれが単に私たちの頭に語るのではなく心臓の中に、超感覚界において、超感覚界の存在たちを通して私たちが受け取ることができる印象について、1つの感情、1つの知覚、気づきを発達させるとき、初めて本来正しいものになります。

●目次より

訳者による序文

I プラハにおける4回の講演

第1講演 プラハ 1924年3月29日

第2講演 プラハ 1924年3月30日

第3講演 プラハ 1924年3月31日

第4講演 プラハ 1924年4月5日

II カルマ論を通して人生と人間の本質を探る

一月のカルマと太陽のカルマの間にある人生とヒエラルキー存在—(訳者による解説)